|  |  |
| --- | --- |
| **学校経営推進費　評価報告書（１年め）** | |
| **１．事業計画の概要** | |
| **学校名** | 履正社高等学校 |
| **取り組む課題** | キャリア教育の充実（生徒の希望する進路の実現） |
| **評価指標** | ・国公立大学進学者数の増加  ・外部機関の客観的学力診断テストにおける学力の向上  ・全国的な学力コンクールでの顕彰  ・学校評価アンケートにおける生徒の思考力、判断力、表現力の向上 |
| **計画名** | 「フューチャークラスルーム：FCR」（プレゼンテーションルーム）で「21世紀型教育」を推進  ～「学びを楽しめる生徒」の育成 |
| **２．事業目標及び本年度の取組み** | |
| **学校経営計画の**  **中期的目標** | 令和４年度事業計画　２．教学等計画　２-１中学校・高等学校  ②学校運営の課題  新学習指導要領の実施と大学入試改革が進行する現在、「受け身の教育」から、生徒が「主体的に学ぶ教育」への転換を促すものであり、ICTの活用やアクティブ・ラーニングの展開を通じて、物事を「探究」する能力を育成することをめざしている。本校においても、教育課程や行事計画等、教育活動や教育内容を、常に見直し、新しい時代に相応する学校運営体制の確立を図り、21世紀型教育を推進する。 |
| **事業目標** | ア．「学びを楽しめる生徒」の育成  １、２年生の「総合的な探究の時間」では、現実社会を題材に、「正解のない問い」を通して、仲間と対話し、意見をまとめて発表することで、思考力・判断力・表現力やコミュニケーション能力を育む教育プログラム「QUEST　EDUCATION」を実施する。また放課後に、英語によるコミュニケーション技能を身につけるために、ネイティブ教員がオールイングリッシュで行う「グローバルゼミ」を実施する。その際、可動式教育用チェア「ノードチェア」と、前方と後方に大型ホワイトボードを配置した「フューチャークラスルーム：FCR」を活用し、現在の普通教室より、効率よくグループ討議、プレゼンテーションを行うことで、「受け身」ではなく「主体的」に学びに向かう力やコミュニケーション力を身につけた「学びを楽しめる生徒」の育成をめざす。 |
| **整備した**  **設備・物品** | 選択教室を「フューチャークラスルーム：FCR」（プレゼンテーションルーム）に改築  ・可動式教育チェア「ノードチェア」（18台）、大型ホワイトボード（１式） |
| **取組みの**  **主担・実施者** | ・主担：教務部入試広報室（広報・探究推進リーダー）  ・取組みの実施者：１、２年生「総合的な探究の時間」担当者、「グローバルゼミ」担当者 |
| **本年度の**  **取組内容** | ・「総合探究」、「グローバルゼミ」担当者による授業・講習の実施（通年）  ・「総合探究」担当者による指導内容の打ち合わせ（毎週土曜日）  ・「履正CUP（総合探究発表会）」の実施（11月）  ・「QUEST CUP」全国大会予選へのエントリー（12月）  ・「学校評価アンケート」の実施・集計・分析（１～２月）  ・全国大会出場決定・出場（２月）  ・「フューチャークラスルーム：FCR」完成（３月）  ・次年度「総合探究」担当者による研修（３月）  ・次年度に向けた指導内容の検討・決定（３月） |
| **成果の検証方法**  **と評価指標** | ①総合型選抜による国公立大学合格者数が３名以上。  ②「スタディーサポート」のGTZ　B1レベル以上が生徒全体の20％以上。  ③・探究活動の発表会である「QUEST CUP」全国大会予選に参加。  ・「学校評価アンケート（生徒対象）」における「授業や課外活動を通して、思考力、判断力、表現力等が向上していると感じる」の肯定的評価70%以上 |
| **自己評価** | ①総合型選抜による国公立大学合格者数が３名以上。  →大阪教育大、奈良県立大に各１名合格、計２名 （△）  ②「スタディーサポート」のGTZ　B１レベル以上が生徒全体の20％以上。  →21.3％ （○）  ③・探究活動の発表会である「QUEST CUP」全国大会予選に参加。  →１・２年各クラス代表19チームが全国大会予選に参加し、本選に１年１チーム、２年２チームが出場 （◎）  ・「学校評価アンケート（生徒対象）」における「授業や課外活動を通して、思考力、判断力、表現力等が向上していると感じる」の肯定的評価70%以上。  →肯定的評価は72％ （○） |
| **次年度に向けて** | 「フューチャークラスルーム：FCR」の完成は、当初計画では2022年10月を予定していたが、2023年度新入生の大幅増が予想され、HR教室や特別教室を含めた教室全体の整備計画がまとまるまで、整備を留保した。2023年１月30日に出願が終了し、必要なHR教室数の目途が立ち、「フューチャークラスルーム」を含めた、教室全体の整備計画がまとまったので、直ちに整備を行い、３月上旬に完成した。その結果「総合探究」等での活用は、できなかったが、「総合探究」の取組みは、順調に進み、11月にクラス代表による「履正CUP（総合探究発表会）」を実施し、12月に「QUEST CUP」全国大会予選へのエントリーを行い、１年１チーム、２年２チームが全国大会出場を果たした。そのうち２年生１チームは、インターン先企業からの依頼を受けて、３月に東京で、企業役員の前で発表「ASHITA MEET」を行った。  次年度は、「フューチャークラスルーム」を、４月当初から積極的に活用し、次年度の成果指標  ・総合型選抜による国公立大学合格者数が５名以上。  ・「スタディーサポート」のGTZ　B1レベル以上が生徒全体の25％以上。  ・探究活動の発表会である「QUEST CUP」全国大会に出場し、佳作以上を受賞。  ・「学校評価アンケート（生徒対象）」における「授業や課外活動を通して、思考力、判断力、表現力等が向上していると感じる」の肯定的評価75%以上。  の達成に向けて、取組みを進めて行く。 |

**３．事業費報告**

